

伝える大震災、つながる防災

災害メモリアルアクションKOBЕ

ACTION 2024

KOBЕのことば

参加無料

活動報告会

日時 **2024.1.6 [SAT]**
10:00 → 13:15

会場 阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

これまで「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸(1996～2005)」そして、その教訓を次世代に伝えるために「災害メモリアル KOBЕ(2006～2015)」を実践してきました。

2016年からこの先の10年を見据え「KOBЕのことば」をキーワードに「災害メモリアルアクション KOBЕ」という取り組みを開始しました。阪神・淡路大震災のつらい経験を二度と繰り返したくないという強い思いから、学んだことを次に活かすことができる形でないといけないという取り組みです。大震災から20年以上経った今だからこそ聞けることば。今しか聞けないことば。その個々の経験を未来へどう活かせるか。世代を超えて、共有し、話し合い、未来へつないでいく。今の KOBЕ だからこそできるアクションです。

近い将来起こりうる南海トラフ巨大地震を見据えて、これから大震災を経験するかもしれないすべての人びとへ、防災の意識を継続させ、少しでも被害を小さくするために、「未災者」が大震災を知り、さらに「未災者」に伝え、つないでいく、新しいチャレンジです。

私たちはこれまでにないアクションにより、継続的な取り組みの検証と検討の場を通して、将来の被災者を減らします。

主催：人と防災未来センター、京都大学防災研究所

共催：京都大学防災研究所 自然災害研究協議会近畿地区部会

企画：災害メモリアルアクションKOBЕ企画委員会

後援：兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会/朝日新聞神戸総局/読売新聞神戸総局/毎日新聞神戸支局/産経新聞神戸総局/神戸新聞社/NHK神戸放送局/ラジオ関西/神戸学院大学/明石工業高等専門学校/関西大学社会安全学部/兵庫県立舞子高等学校/兵庫県立大学/兵庫県立尼崎小田高等学校

プログラム

※敬称略

10:00 開会挨拶
災害メモリアルアクションKOBЕ 企画委員会委員長
人と防災未来センター 上級研究員
京都大学防災研究所 教授 牧 紀男

10:05 活動発表
発表：①兵庫県立舞子高等学校
②滋賀県立彦根東高等学校
③兵庫県立尼崎小田高等学校
④TEAM-3A
⑤国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°
(明石高専防災団) 開発チーム
⑥国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°
(明石高専防災団) 地域連携チーム
⑦神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ
⑧神戸学院大学 クローズアップ社会研究会
⑨関西大学 社会安全学部 奥村研究室
⑩兵庫県立大学防災リーダー教育プログラムチーム

12:15 パネルディスカッション
「これからの『報せる』は？」
コーディネーター：国立明石工業高等専門学校 准教授 本塚 智貴
人と防災未来センター 研究部 研究調査員 塩津 達哉
グラフィックファシリテーション：大阪防災プロジェクト共同代表 多田 裕亮
山越 香恋
パネリスト：兵庫県立舞子高等学校
滋賀県立彦根東高等学校
兵庫県立尼崎小田高等学校
神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ
関西大学 社会安全学部 奥村研究室
以上5団体代表

13:10 講評・閉会挨拶
災害メモリアルアクションKOBЕ 企画委員会顧問
人と防災未来センター長 河田 恵昭



全体テーマ:

KOBÉ のことば

「KOBÉ」とは、阪神・淡路大震災の被災地域全体と、災害の影響を受けたひと、そして災害後まちのために活動したひと、すべてを表現しています。

阪神・淡路大震災から28年、大震災を直接経験していない若い世代の人たちが、災害を経験した人々へのインタビュー、アンケート、交流事業などの活動を通じて、次世代に伝えるべき「KOBÉのことば」を紡ぎ、活かし、広げます。「過去・いま・未来」を見据え、世代を超えて活動する、最先端のアクションです。

兵庫県立舞子高等学校



舞子高校チームは、先生方への被災体験インタビューや、防災ブック作成の活動に取り組んでいます。多くの人に災害の怖さを知ってもらい、防災の必要性を感じてほしいです。これからも未災者が防災・減災を考えるきっかけを作れるように頑張ります。

国立明石工業高等専門学校 D-PRO135° (明石高専防災団)



地域連携チーム

小中学校での防災授業や防災イベントの参加などの活動をしています。防災を楽しく学んでもらうために、避難所運営ゲーム「チャレンジ!」や防災ボードゲーム「RESQ」の体験、クイズを交えた講義などを行っています。今年は、更に楽しい防災授業を目指して話し合いを重ねています。



開発チーム

防災ゲームの開発や改良、防災クイズの製作を行っています。今年度は、新たな防災ゲームとして人狼ゲームを模した防災ゲームの開発を進めています。また試作段階ですが今年度中には第一段を完成させたいと思っています。高専生ならではのアイデアが詰まった、遊んで学べる防災ゲーム作りを続けています。

神戸学院大学 現代社会学部



安富ゼミ

神戸学院大学社会学部防災学科安富ゼミ「防災聞き書き隊PARTⅢ」です。今年度は平成30年8月の台風10号で9人の犠牲者を出した岩手県岩泉町の高齢者施設の責任者らにインタビューし、その教訓として行われている「岩泉方式」をまとめています。これを神戸の皆さんに報せます。



クローズアップ社会研究会

今回は、「山火事」をテーマに調査・考察していきます。山火事は身近に起こっている災害なのにも関わらず、あまり着眼されていません。そこで、高御位山と加古川山林でフィールドワークを行い、動画を作成するなどして、山火事の現状を報せていきます。

滋賀県立彦根東高等学校 新聞部



東日本大震災復興支援特集「福島をつなぐ」の連載を始めて12年が経ちました。物価高騰という滋賀の高校生にも身近な所から、ALPS処理水やエネルギー問題、福島原発災害のその後を追いました。また弱者×避難と題し、みんなで逃げるための備えについて考えました。

兵庫県立尼崎小田高等学校



はじめての参加です。取り組みの柱は2つ。フレイル予防体操の開発&災害食レシピの作成、発達障がいを持つ人が平時から災害時まで生きやすい社会を構築するための理解促進のための劇のシナリオ作成です。

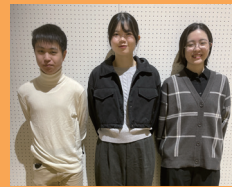
活動の成果を地域住民に報せていきます。

TEAM-3A チーム トリプルエース



「いつでも・どこでも・だれでも楽しくぼうさい」がテーマのユースの自主活動グループです。昨年の5月に有志のメンバーで発足。今年度から新たに明石市役所・社協・コープこうべとの連携により地域に根差した活動を展開しています。

兵庫県立大学防災リーダー教育プログラムチーム



まちびらき25年を迎えたHAT灘の浜の住民の方々から、阪神・淡路大震災からどのように復興してきたか、どのような困難があったか、そしてこれからどのようなまちをめざしていくのかについてお話を聞き、今後私たちが復興の担い手になる時の教訓を学びます。

関西大学 社会安全学部 奥村研究室



阪神・淡路大震災では、建物の耐震化や家具転倒防止、火災対策や災害関連死対策など、多岐に及ぶ防災の取り組みの重要性が広く社会に認知されました。私たちは、それらの取り組みの普及速度や普及率に注目して、当時の教訓は生かされているのかを検証しています。

パネルディスカッションテーマ:

「これからの『報せる』は?」

「報せる」には一方通行のイメージがあるが、現在「双方向」「つながる」という観点も重要となっている。その方法論にとどまらず、モノの持つ力といった多様な視点から未災者が未災者に「報せる」ことのこれから、について考えよう。